入選

小さな親切からできたごみステーション

千葉県　御宿中学校　一年
須藤　葵

僕の母は、配達の仕事をしています。１件１件、お客さんの家を訪問して商品を届ける仕事です。お客さんのほとんどがお年寄りで、中には一人暮らしのお年寄りも多くいるそうです。今年の夏は特に暑いので、母は１件１件、声をかけて回っているそうです。

「いつも気にかけてくれて、ありがとうね。」

どのお宅でもそんな感謝の言葉が返ってきて、とても喜んでくれるそうです。僕はその話を聞いて、とても温かい気持ちになりました。

あるとき、母にごみ捨てを頼まれたので、ごみステーションまで歩いていると、近所のおばあさんが家の周りの草取りをしていました。

「おはようございます。」と僕があいさつをすると、おばあさんも、「おはよう。」と返してくれました。そのとき、母の仕事の話を思い出し、声をかけてみました。

「暑いから、気をつけてください。」

すると、おばあさんは、「ありがとねぇ、気をつけるよ。」と、ニコッと笑って返してくれました。僕はとても嬉しい気持ちになり、勇気を出して声をかけて良かったな、と思いました。

それ以来、おばあさんは僕のことを気にかけてくれるようになり、ごみ捨てに行くと「お手伝いしてえらいね。」と優しい言葉をかけてくれます。人に親切にすると、自分にも親切が返ってくると、母がよく言っていることが実感できました。

先日、またごみ捨てに行くと、ごみステーションの中のごみが、動物に荒らされていました。僕が母と荒らされたごみをそうじしていると、あのおばあさんが手伝いに来てくれました。

「最近、毎日荒らされているんだよ。中に動物が入っちゃって困るね。私が気づいたときは、片づけているんだけどね。」

おばあさんが、荒らされたごみをいつも片づけてくれていたのだと知り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。僕にも何かできることはないかと考え、ごみステーションの中に動物が入れないように家にあった板を持ってきて、すき間をふさぎました。

最初は、うまく板がフィットしなくて、板の向きを変えたりして正直言って苦戦しました。そうしていると、近所の人たちが集まってきて、ごみステーションの修理が始まりました。

近所の人たちと協力してできたごみステーションが僕は大好きで、ごみを捨てに行くたびに明るい気持ちになります。自分が少しでも役に立つことができたような気がして、幸せな気持ちになります。近所の人たちと繋がりができたことも、とても嬉しく思います。

このごみステーションには、近所の人たちみんなの思いやりがつまっています。みんなが気持ちよく使えるように、大切に使っていきたいと思います。

今年の夏休みは、そんな地域の輪が小さな親切で生まれて、大きくなることを体験できた最高の夏休みになりました。これから始まる２学期も、そんな小さな親切で学級の中や学校の中でも輪を作っていきたいと思います。